

第9回第8次医療計画等に関する検討会 における主な意見

第9回検討会(2022/6/15)における主な意見

(人材配置について)

- ・ 単に高齢者が増えてくるから在宅患者数が増えて、それに対して訪問診療、在宅医療、そして、初期医療ということを考えるだけでなく、単身世帯であっても在宅医療が可能になるには何が必要なのかを併せて考えていく必要がある。
- ・ 地方のかなり過疎化してきた二次医療圏においては、医師の高齢化であるとか、後継者がいない診療所もあり、こういった地域において必要とされる医療機能に関する医療提供の問題も大きい。
- ・ 次期外来医療計画においては、在宅患者数、緊急搬送件数の増加をどう織り込んでいくのか、また、そうした状況への対応として、外来医師多数区域で不足する機能を担うように要請するだけでよいのか、については大事な論点。
- ・ 外来医療計画の実効性の担保については、地域の保健医療協議会等で、その地域において外来医療において何が問題なのかというまず現状把握をした上で、人口減少を見据えた上で、その医師ないしは医療機関の所在ないしは在り方を検討していくということを地域で共有をする必要がある。
- ・ 外来医師多数区域における新規開業者の話だけでなく、もう少し広い視点を持った結論にしたほうがよいのではないかと。
- ・ まだ全体に増えるということには留意してほしいということと、それは5年後、10年後の推計を見れば、どこがこのまま多数地域のまま終わるか、今、多数地域でも少数地域に落ちていくのかということも分かると思うので、そういう数字を示してもらいたい。
- ・ 単なる外来医師数だけではなく、その内容あるいはその外来医療を提供する機能という視点も重要。例えばソロプラクティスなのか、グループプラクティスなのか、あるいはいわゆるビル診なのかといった実際の外来医療機能の状況についても検討すべき。
- ・ 外来医療計画の策定において実効性を確保するという点からも、外来の医師偏在指標以外にも例えば外来の看護師数ですとか、地域で活用できる医療人材の視点といったものも入れて様々なデータを基に検討することが必要ではないかと。
- ・ デジタルトランスフォーメーションも含めたデジタル化等、いろいろな取組をしないと、単なるマンパワーの数合わせだけではどっちみちうまくいかないようになってくるのだろう。

第9回検討会(2022/6/15)における主な意見

(医療機器の効率的な活用について)

- ・ 医療機器の共同利用を進めていく中で、費用面の効率化は何か工夫が既にあるのか。また、もし共同利用を進めていくのにそういうものがなければ、そういったものも併せて考えていけないのではないか。
- ・ PETとかリニアック、ガンマナイフ、この辺のデータを表に出すべき。さらに共同利用しなくてはいけないほかの高額医療機器の議論を進めるべきではないか。
- ・ マンモグラフィーに関してはまだ普及を目指しているのではないかと認識。
- ・ 国際的に見ると日本はCTやMRIといった医療機器の人口当たりの配置数が極めて多いという基本的な事実は踏まえておく必要があり、そういうデータはまず示した上で議論すべき。
- ・ 高額医薬品の医療など、高額医療なのか、これから適正に行われているかという観点になるのではないか。
- ・ 現状把握というか見える化の徹底、それに加えて共同利用計画の提出、これを原則とするということも検討すべき。
- ・ 医療計画というのは医師確保、それから働き方改革と連動していくものであり、そこで働いている医療者なり医師という視点も入れたような作図にしていきたい。
- ・ 放射線治療医が全国で非常に不足している状況の中で、この放射線治療機器がどんどん幾つかの病院に地域のニーズで入っていくことがないように、バランスをぜひ考慮していただきたい。
- ・ がん医療の均てん化の推進の観点で、地域がん連携拠点病院を整備する過程で政策的に設置を進めてきた側面もある。こうしたこれまでの経緯や地域事情も考慮する必要があるもの。また、患者の視点で見た場合、効率化を進めることにより、デメリットが生じる可能性があり、機器の活用状況だけで機械的に集約などを進めるものではないという丁寧な説明も必要ではないか。